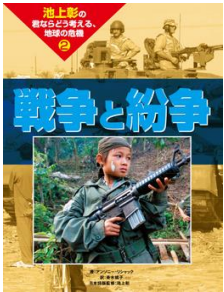
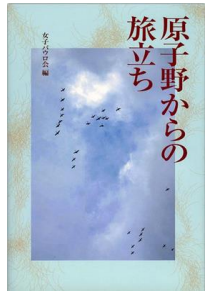
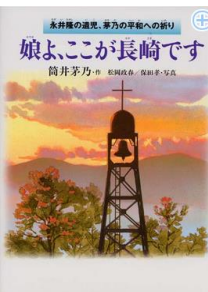


郷土学習セット「1-3小学生向け 原爆・平和学習①」から6冊を紹介します

2	『原爆を子どもに どう語るか』 横川嘉範／著 高文研	広島で被爆した著者の被爆体験。そして被爆の後も続く原爆の恐怖。原爆を子どもにいつ、何を、どのように教えるか。訴えつづける被爆者であり、平和教育に生きてきた、出版当時の東京被爆者団体協議会事務局長による21世紀への伝言です。	
21	『戦争と紛争』 (池上彰の君ならどう考える、地球の危機 2) アンソニー・リシャック／著 青木 桃子／訳 池上 彰／日本 語版監修 文溪堂	原爆被害者、戦争のテレビゲームがすきな子、平和主義者、テロリスト、学校でのいじめなど、様々な立場の人の意見や背景について説明しています。この本を読んで、戦争や紛争について、そして平和について、あなただったらどう考えるでしょうか。	
26	『夕凧の街 桜の国』 こうの 史代／著 双葉社	広島に原爆が落ちてから10年後、被爆して母と二人、被爆の記憶を背負いながら必死に普通に生きていこうとする女性の物語です。そしてさらに50年経っても原爆の傷は色濃く残ります。	
30	『原子野からの旅立ち』 女子パウロ会／編 女子パウロ会	広島と長崎に原爆が落ちてから60年後に発行された本です。被爆体験の継承と平和教育のために広島から10名と長崎から15名の方々が、自らの被爆体験や平和運動の体験を語り、教皇ヨハネ・パウロ二世が広島、長崎を訪れた際に話された言葉も掲載されています。	
35	『娘よ、ここが長崎です』 筒井 茅乃／作 松岡 政春／写真 保田 孝／写真 くもん出版	被ばくした長崎で、病をおして献身的に被爆者たちの救護に当たり、そのうちも平和へ願いを訴え続けた永井隆博士。その遺児・茅乃は、そんな父の姿を見つめて成長し、母となって平和の尊さを語ります。	
36	『うそつき咲っぺ』 長崎源之助／著 石倉欣二／挿絵 佼成出版社	広島に原爆が落ちてから40年後、平和記念公園で修学旅行の中学生を前に自らの被爆体験を語る咲子がいました。原爆が落ちた時、咲子はどのような体験をしたのでしょうか。そして、なぜ、被爆体験を語るようになったのでしょうか。	